

## 【様式1】

## 令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立本村小学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の学習は意欲的に取り組むが、漢字テストの平均が65点と全国平均の85点と比べ、20点低い。</li> <li>・単元テストの結果から、内容を正しくとらえて、文章を読み取ることに課題の見られる児童が20%程度いる。</li> <li>・感想文や毎週末の日記の宿題に取り組ませた結果、自分の考えを文章にまとめて書くことに苦手意識をもつ児童が20%程度おり、こうした問題への意欲が低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を例文と合わせて覚えるように指導をする。授業始めの「5分タイム」等を活用して、既習漢字を繰り返し学習することで、80%以上の児童が定着できるようにする。</li> <li>・文章を繰り返し読み、大事な言葉や繰り返し使われる表現などに着目し、理解させる。文章に線を引いたり、文の一部を書き抜いたりする活動を多く取り入れる。80%程度の児童が必要な読解力を身に付けるようにする。</li> <li>・短作文や日記など、文章を書く機会を多く設定し、正しい文字や文章を書くことに慣れさせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストの結果、数の仕組みについて理解できていない児童が20%程度見られ、数の大きさや量感を養う経験の差によるものと考えられる。</li> <li>・たし算やひき算等の既習事項の定着に課題が見られ、百マス計算を7分以内に終える児童が10%以内である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量感を養うために、具体物を操作する活動や、かさや長さを体感する活動を多く取り入れる。90%以上の児童が定着できるようにする。</li> <li>・授業の始めの活動でプリント等を活用して繰り返し復習する。授業の導入で既習事項の確認を丁寧に行い、定着が不十分な児童の困り感が少ないようにする。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果、生活科が「好きだ」「まあまあ好きだ」と答えた児童が84%いた。実際に、学校案内や、校外学習の秋探しなどの異学年交流では、積極的に1年生に声をかけるなど、主体的にかかわろうとする児童が一定数いる。</li> <li>・アンケートの結果、自分たちの住んでいる地域について、「知らない」「あまり知らない」という児童が48%程度いた。地域のよさや地域のために働く人々についての理解に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「町探検」をはじめとする、それぞれの活動の前後や、活動中に積極的に交流を行い、気付いたことや考えたことを広げたり、まとめたりする。</li> <li>・実際に地域に出たり、一人一人が植物を育てたりと、体験活動の充実を図る。また、その活動を通して気付いたことをもとに、自分とのかかわりについて考える時間をもつ。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の東京都統一体力テストの結果において、東京都の平均値と本校2年生の平均記録とを比較したところ、「長座体前屈（柔軟性）」は、男子は1.9cm、女子は3.5cm、東京都の平均値を上回った。一方、「反復横跳び（敏捷性）」「50m走（スピード）」「立ち幅跳び（瞬発力）」においては、男女ともに、東京都の平均を下回った。</li> <li>・休み時間には、クラス遊び等を活用して、クラスの児童全員で外で体を動かす機会を月1回程度設けている。しかしながら、学校生活アンケートの結果、20%程度の児童は、普段の休み時間を教室で過ごすことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の授業の準備運動の際に、「鬼あそび」のように「敏捷性」「スピード」「瞬発力」を取り入れた活動を、計画的かつ継続的に行う。そうすることで、年度末までに90%の児童の「反復横跳び」「50m走」「立ち幅跳び」の全ての記録が、5月の記録よりも向上していることを目指す。また、毎回の活動が形式化してしまい、児童の意欲が低下しないよう、ルール工夫や、多様な動きを取り入れた活動、主運動に関わる補助運動を可能な範囲で取り入れたりする。</li> <li>・豊富な運動量の確保と、運動時間の充実を実現する。指導や準備等の時間は、分かりやすく完結にし、授業の中で、運動(活動)時間を20分は確保するように、授業設計をしていく。</li> </ul>